
 報 告

第 6 回医学図書館員基礎研修会参加記

江尻 美砂

1999年もうよいよ最後の月となり、記念すべき2000年を迎える準備がいたるところで進む中、JMLA主催「第6回医学図書館員基礎研修会」が12月6日から3日間に渡り開催されました。会場は愛知医科大学。建てられたばかりの新しい校舎は実に美しく、日頃仕事をしている病院図書室と比べては、ただただ羨ましく思うばかり。私は良い天気と素晴らしい環境に学習意欲を掻き立てられ、緊張しつつも張り切った足取りで教室に向かうのでありました。研修会にあまり参加したことのない私は、日頃お世話になっている方々にお会できることを楽しみにしていました。実際にお会いしてみると声や筆跡、お名前から想像していた姿そのものだったり、そうじゃなかったり。ようやくお顔をみて日頃の感謝の気持ちを伝えることができました。

講義・講演は先生方の丁寧な説明に加え、コンピュータを使うなどとても解りやすく興味深いもので、(珍しくも)私は最後までしっかりと目を開けていることができました。講義が進むに従い、業務に追われる毎日の中忘れてはいけぬのに忘れかけていた事、怠ってはいけぬのに怠っていた事が次々と思い出され、病院に帰ってからあれもやろう、これもやらなきゃと頭の中は病院と講義とを行ったり来たり。それに加えてこのような講義・講演の連続はここ数年経験しておらず、肉体的精神的にかなりの疲労感を覚え、ぐったりしながら岐路についたことを思い出します。

二日目には実際にコンピュータを使って文献検索(PubMed、医中誌等々)を学び、グル

ープ討議では図書、雑誌、閲覧・参考、相互貸借と10人程のグループに分かれ約3時間に渡り討議を交わしました。メンバーは全国各地の大学図書館、病院図書室からの参加ということで、それぞれの仕事を正しく理解できるとてもよい機会であったと思います。予想通りこの時間は将来の展望、未来予想図と希望に満ちた明るい話題だけで終わることはできませんでした。我々の抱える問題を解決するには情報を与える側、受け取る側、そして図書館(室)に関わるすべての人々が情報というものを正しく理解し、その価値を認め、損得を考えず互いに協力し合うことが必要だと改めて感じました。永遠のテーマとも言えそうな難しい問題が山積みです。

グループ討議やランチ(おいしかった!)を御一緒できた皆様とは仕事以外の話もさせていただき、ようやく肩の力を抜いて研修に臨めるようになった頃にはもう最終日。別れを惜しみつつ全プログラムを終え、最後には驚くほど立派な修了証書までいただきました。自覚を持ってがんばって下さいといわれているようで、ズッシリと重く感じました。

振り返ってみればあっという間の3日間。この研修会に参加された皆様、お元気になっていらっしゃいますか? 今後はこの皆様との運命的な出会いに感謝しながらネットワークを大切に、世界を駆け巡る情報流通網の繋ぎ目役を立派に果たしていけるようがんばっていきたいと思います。数々の貴重な経験をありがとうございました。